

主会場に求められる機能(運動公園としての日常利用の視点から)

敷地内確保必要性： 「 」 > 「 」 > 「 」
 必須 あることが望ましい 条件が許せば導入

用途等		利用イメージ等	必要性
第1種陸上競技場 (メインスタジアム)		<ul style="list-style-type: none"> 球技場(サッカー、ラグビー等)としても活用 第1種陸上競技場 15,000人以上(うちメインスタンドは7,000人程度で屋根付き) 参考:サッカーJリーグ観客数(固定席)基準(既設の場合) J1 15,000人以上、J2 10,000人以上、J3 5,000人以上 (新設の場合、J1 20,000人~40,000人、J2 15,000人~20,000人、J3 5,000人~15,000人) スタンド下を防災備蓄倉庫として活用(例:三木総合防災公園、熊谷スポーツ文化公園) 	
第3種陸上競技場 (サブトラック)		<ul style="list-style-type: none"> 第1種陸上競技場の補助競技場(練習やウォーミングアップに使用) 	
駐車場		<ul style="list-style-type: none"> 日常的な運動公園利用者のために必要な台数を想定し確保 	
その他 運動施設	テニスコート	<ul style="list-style-type: none"> 総合運動公園として求められる機能や、日常的な利用見込みを検討のうえ、面積等の条件を勘案し設置 	
	野球場		
	球技場		
	プール		
	体育館		
	多目的グラウンド		
	投てき練習場	日本陸連公認第1種陸上競技場の要件ではないが、大規模競技会では主競技場の至近に設置	
その他施設	進入路や管理用通路等	<ul style="list-style-type: none"> 公園としての機能に必要不可欠な施設 	
	オープンスペース (芝生・緑地等)	<ul style="list-style-type: none"> うるおいや安らぎの創出 法令等による制限に伴い必要とされる空地、緑地としてカウントするためにも必要 	
法令等による制限	建ぺい率(都市公園)	<ul style="list-style-type: none"> 12%(通常建ぺい率2%+特例建ぺい率10%(運動施設)) 	
	運動施設率(都市公園)	<ul style="list-style-type: none"> 運動施設の敷地面積の総計は、当該都市公園の敷地面積の50%を超えてはならない 	
	残置森林率(保安林)	<ul style="list-style-type: none"> 保安林解除の際、事業区域の70%の森林を確保(残置森林率) 有効敷地面積は事業区域の30%となる 	保安林 区域のみ

主会場に求められる機能、規模(式典運営・競技運営の視点から)

(注:主会場選定作業のための仮定条件であり、今後施設整備検討の過程で精査を行うものとする。)

敷地内確保必要性: 「 」 > 「 」 > 「 」
 必須 会場内または隣接地必須 会場外でも可

必要となる空間	利用者(人数)	想定面積	空間イメージ等	必要性
式典会場・ 陸上競技会場 (メインスタジアム)	選手・監督 観覧者 大会関係者	最大で 40,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> 開会式時には仮設席を含み固定席で最大15,000席を確保(式典音楽、合唱者席、視界不良席等を除く) 想定される客席数や、防災備蓄倉庫の機能を持つ以下の施設の規模を参考とする。 三木総合防災公園(兵庫県) 固定席+芝生席合計20,000人 39,424㎡ 熊谷スポーツ文化公園(埼玉県) 固定席15,400人 39,787㎡ 	
補助競技場 (サブトラック)		17,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> 入場行進前の選手団が整列する待機所として利用 陸上競技時には練習会場として利用 	
選手団待機所	選手・監督 (最大5,000人)	10,000㎡~	<ul style="list-style-type: none"> 入場行進に備え、選手団が整列し待機するスペース 先催県の多くは補助競技場を活用 	
選手団控所		5,000㎡~	<ul style="list-style-type: none"> 各県選手団の拠点スペース(荷物置き場、着替場所等) 	
式典前演技者・ オープニング出演者 待機所	式典前演技者・ オープニング出演者 (最大5,000人)	10,000㎡~	<ul style="list-style-type: none"> 式典前演技者、オープニング出演者が出番直前に待機する場所 式典会場(開閉会式会場)に近接している必要がある 式典会場に近接しており、十分なスペースが確保できるときには、控所と兼ねることを想定する 	
式典前演技者・ オープニング出演者 控所		12,000㎡~	<ul style="list-style-type: none"> 式典前演技者、オープニング出演者が待機所移動前に準備等を行う控場 幅広い年齢層の出演者が長時間(3~4時間程度)待機する必要があるため、屋根や椅子の確保が必要 <p>先催県では、会場内の施設(体育館等)や近隣の学校等公共施設、隣接したホテルの宴会場等にて確保</p>	

必要となる空間	利用者(人数)	想定面積	空間イメージ等	必要性
駐車場	大会運営者 (実施本部員の約半数)	10,000㎡～	・実施本部員車両駐車場	
	バス乗降・転回場	10,000㎡～	・選手団の移動(特に「全国障害者スポーツ大会」)を考慮すると、会場内に確保することが望ましい。	
	乗用車 (実施本部員、大会役員、特別招待者等)	90,000～	・会場外で確保している例が多い	
	計画バス (選手団、式典関係者等)	120,000㎡		
	シャトルバス利用者の駐車場 (一般招待者、観客等)			
おもてなし空間		10,000㎡～	・国体スポンサー関連店のブース(必須) ・開催県のPR・物産販売や飲食ブース	
保安監察場 (セキュリティチェックポスト)	開会式の全来場者	6,000㎡	・ID管理、手荷物検査所 ・式典会場入場口前アプローチに設置することが望ましい	
諸室	大会役員、行幸啓関係者	-	・第1種陸上競技場(スタンド)内に確保可能	
大会実施本部ほか	実施本部員(県職員等)、 報道関係者	1,000㎡	・実施本部員や報道関係者の詰所、実施本部倉庫等 ・会場内にプレハブ等で設置している例が多い	
体育館(荒天時対応)	最小限の参加で開会式開催が 可能なスペース	1,500㎡～	・先催県の例から、体育館でなくてもよい ・必ずしも同一敷地内になくてもよい	
投てき練習場	陸上競技 投てき競技者	7,500㎡～	・会場内への整備は必須ではない (日本陸連公認第1種陸上競技場の要件ではない) ・ただし、近接した場所に確保することが必要	

式典（国体開会式）参加者一覧

【資料1】

参加区分		参加区分内容	主な動き
入退場者	選手・監督	各都道府県の選手、監督および選手団団長、副団長、総監督等	(会場入場) ・控場 待機所 ・入場(行進) ・式典 ・控場 (退場)
	都道府県役員		
観覧者	大会役員	日体協、文科省、開催県、県体育協会、市町関係、学校関係、体育団体関係者等	(会場入場) ・スタンドに着席 ・式典等観覧 (退場)
	特別招待者		
	一般招待者	招待枠に基づく招待者	
	一般観覧者	一般の観覧者	
	視察員	国体視察のため来会する各都道府県体育協会、スポーツ主管課、国体準備主管課	
	報道員	報道関係者および各都道府県の報道員	
大会関係者	式典・演技出演者	式典に係るオープニングプログラム出演者（ダンスや伝統芸能、公募プログラムなど）、式典前演技者（吹奏楽、合唱隊、ダンスなど）	(会場入場) ・控場 待機所 ・式典演技 ・控場 (退場)
	実施本部員	運営に従事する県職員および補助者	(会場入場) ・場内においてそれぞれの業務に従事 (退場)
	ボランティア	ボランティアなど大会係員等の業務補助者	
	その他大会協力者	業務委託によるスタッフ、医師、看護師、消防士、警察官、警備員等	
合 計			

式典（国体開会式）参加者の想定人数

（注：主会場選定のための仮定条件であり、今後大会準備の過程で精査を行うものとする。）

参加区分		想定人数	参加者想定
入退場者	選手・監督	最大で 5,000人	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年の先催県の参加者数は概ね 5,000～5,500人 ・式典プログラムにおける入場行進に費やせる時間の制約等も考慮
	都道府県役員		
観覧者	大会役員	最大で15,000人	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の先催県間では大きな幅がみられる（概ね13,000～27,000人） ・「大会運営の簡素・効率化」の視点 ・新設となるメインスタジアムの規模等を勘案
	特別招待者		
	一般招待者		
	一般観覧者		
	視察員		
	報道員		
大会関係者	式典・演技出演者	最大で 5,000人	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年の先催県の参加者数は概ね 6,000～10,000人 ・「大会運営の簡素・効率化」の視点のもと、今後の開催予定府県の傾向（3,000人～6,500人で想定）を勘案
	実施本部員	5,000人	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年の先催県の参加者数は概ね 5,000～9,000人 ・「大会運営の簡素・効率化」の視点のもと、運営上必要な人数は確保
	ボランティア		
	その他大会協力者		
合 計		最大で30,000人	